

全国結核予防婦人会だより

発行●公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-3-12 TEL 03-3292-9288

2018.11
No.124



健康な未来のために 2018-19 日本
2018年度
複十字シール圖案
デザイン:安野光雅画伯

健康の輪



編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

資金寄附者感謝状贈呈式並びにお茶会

平成30年5月31日リーガロイヤルホテル東京(東京都新宿区)において、結核予防事業資金として結核予防会に多額のご寄附をいただいた個人や団体の方々に、秋篠宮妃殿下より感謝状が授与されました。また、記念写真とお茶会が行われ、資金寄附者の方々となごやかなひとときを過ごされました。



結核研究所国際研修生との懇談会

平成30年6月19日秋篠宮邸にて、平成30年度「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)時代における結核制圧コース」の10カ国12名の研修生と御懇談が開かれ、研修生一人一人とお言葉を交わされました。



複十字シール運動大臣表敬訪問

9月10日（月）、結核予防会と全国結核予防婦人団体連絡協議会は厚生労働大臣表敬訪問を行い、宇都宮啓健康局長と面談し、運動への一層のご理解とご協力をお願いしました。

はじめに、工藤理事長より日本の結核の低まん延化へ向けてはさ

らなる努力が必要であることを伝え、次いで、小林募金推進部長より複十字シール運動の趣旨と取り組み、木下婦人会長より婦人会の活動状況についてそれぞれ報告し、あわせて、募金の新しい方法として寄付型自動販売機の全国への普及を進めていることなどを説

明しました。

宇都宮局長からは、結核予防の普及啓発活動への激励の言葉をいただき、最後に第69回結核予防全国大会で採択された決議宣言文に要望書を添えて前川事業部長より提出しました。🐾



知事表敬訪問

結核予防婦人会秋田県連合会
会長 小玉 喜久子



第100回全国高校野球選手権記念大会準優勝の金足農業高校が初戦で鹿兒島実業高校に勝利した気分のぬけきらない8月10日、全国一斉複十字シール運動にあわせ、結核予防会支部役職員、結核予防婦人会秋田県連合会正副会長計9名で佐竹秋田県知事を表敬訪問しました。

なごやかな雰囲気が進み、はじめに「1965年の創立以来、結核予防の普及啓発のため運動を続けてきた。さらに運動を盛り上げるため各市町村や保健所への働きかけをお願いしたい」と要望。広島県で

行われた全国大会の大会決議と大会宣言をシール等の資料と共に渡し、運動への協力をお願いしました。知事は「県が掲げる健康寿命日本一を達成するために、皆さんの活動は大切、是非協力したい」と応じてくださり、私どもは9月の結核予防週間に行っている街頭キャンペーンの啓発資料を手渡し、秋田県の募金状況をお知らせしました。

表敬訪問の様子はテレビと新聞

で報道され、励みとなり、健康な社会づくりを担う意気が胸に広がっています。🐾



神奈川県地域婦人団体連絡協議会 会長 松尾 美智代



8月28日に、神奈川県結核予防会理事長、県婦人会正副会長、事務局員同行により知事を表敬訪問しました。はじめに県職員による結核罹患状況の報告、県予防会理事長より日頃の私たちの活動、予防会の

対応等のお話をされました。医学の進歩により不治の病と言われていた結核の感染等への不安も薄れてきましたが、未だ発症の恐れをぬぐいきれません。中蔓延国と言われている状況の中で予防活動は重視され、各方面への啓発活動を行っております。特に複十字シール募金活動において東南アジア等途上国の結核予防にも協力しております。最近では若い女性の喫煙が多く見られる喫煙防止等の

呼びかけも行っています。知事も関心を示されました。

短時間ではありましたが、活動を理解してくださり、温かいお言葉をいただきました。今後とも知事のお力添えをお願いして記念写真を撮らせていただきました。シールぼうやを持って写っていた知事に、机の上に置いてくださるようお願いしました。9月22日には街頭啓発シール募金運動を行うこともお伝えしました。🐾



愛知県地域婦人団体連絡協議会 会長 村上 千代子



愛知県地域婦人団体連絡協議会では、毎年全国一斉複十字シール運動開始に合わせ、県知事表敬訪問をしています。今年度は8月3日(金)に愛知県庁副知事室へ宮本悦子愛知県副知事を訪問しました。公益財団法人愛知県健康づくり振興事業団の河隅彰二理事長をはじめとし、愛知県健康福祉部保健医療局長、健康対策課長らとともに、愛知県地域婦人団体連絡協議会からは会長、役員の名が同行させていただきました。宮本副知事へ複十字シール運動への協力を依頼致しました。

複十字シール運動は、世界中の結核、肺がんやその他の胸部の病

気をなくすため、世界各国で行われている募金活動です。愛知県内ではもちろんですが、大府市にあるあいち健康プラザでは早期発見に向けた健診の呼びかけ等の啓発活動もしています。

結核は過去の病気ではありません。私達一人ひとりが結核予防を中心とした健康づくりに果たす婦人の役割をよく認識して、健康で明るい生活、社会を実現するための方法や活動について自分自身の

問題として考え、少しずつでも活かしていきたいと思えます。

「結核ってどんな病気？」から始まり基礎知識を得ることが大切だと考えています。よく理解し、かかったら治し自分自身や身近な人たちを結核から守ることになり、明るい笑顔の生活に繋がることとなります。

愛知県地婦連は、さらに複十字シール運動の輪を広げてまいります。🐾



山口県結核予防婦人会
会長 藤家 幸子



今年も複十字シール運動の時期が参りました。8月9日、県結核予防婦人会会長、副会長、事務局長は、県予防保健協会理事長、シールぼうやと共に複十字シール運動啓発のため、村岡副知事を表敬訪問しました。

河村理事長は、今年2月広島県開催の全国大会で採決された決議文や陳情書を手渡し、婦人会は結核患者の現状やシールに託された活動内容など、結核根絶に対する認識を高めていただけるよう複十字シールを手渡し、協力の要請をしました。もちろんシールぼうやも県のマスコットキャラクター「ちよるる」に結核根絶運動の幟旗を手渡しました。

村岡知事は、フルマラソンにも挑戦されて毎年好成績で完走さ

れ、県民誰もが承知しているスポーツマンです。私的な時間は、走られる証にすっかり日焼けされていきました。表敬訪問の趣旨をしっかりと受け止められ「たいへん重要なことです。しっかりと取り組みましょう」と笑顔でお約束してくださいました。

さっそく、県内各地での啓発活動を開始し、集中的なキャンペーンは、11月山口市で実施し、複十字シール運動を広げて参ります。🐱



鹿児島県結核成人病予防婦人会
会長 伊佐 幸子



8月1日、複十字シール運動月間の始まりと同時に知事を表敬訪問いたしました。今まで数回、知事訪問

をいたしました。今回初めて代理ではなく本物の知事にお目にかかることができました。

今年県民総合保健センターの所長に就任された桶谷薫先生が複十字シール運動の概要について説明され、知事をはじめ、県全体の行政に携わる方達の複十字運動への理解と支援を求められました。先

進国でありながら、未だに中蔓延国である日本の現状が、2020の東京オリンピックまでになんとか低蔓延国の仲間入りを果たせるよう、私達も再度誓いを新たにいたしました。🐱



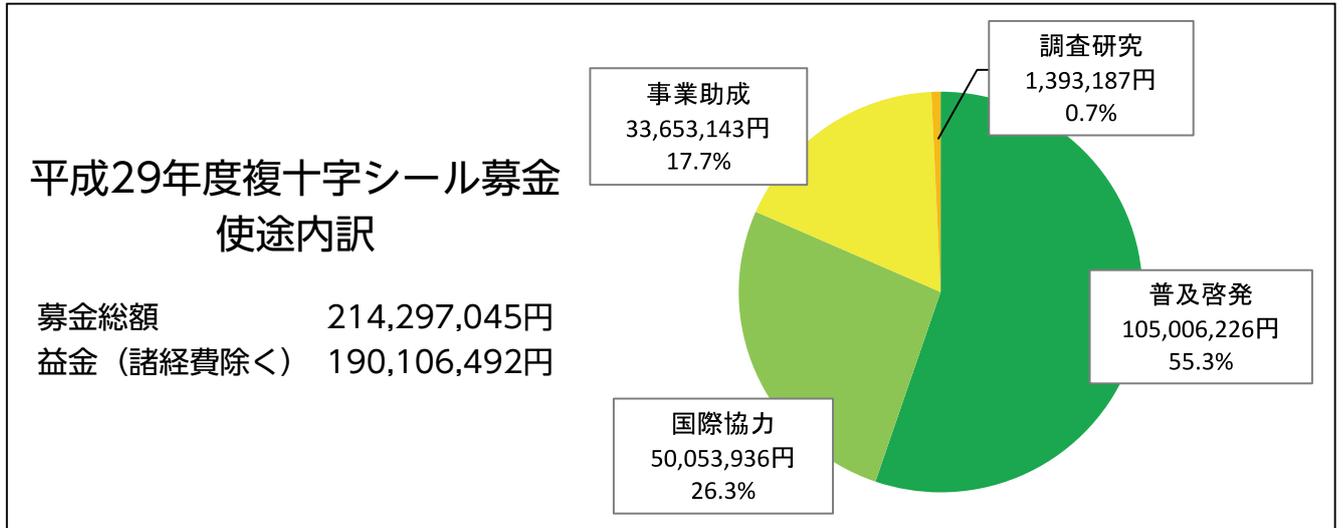
平成29年度複十字シール募金結果報告 で支援ありがとうございました

平成29年度の複十字シール運動は、厚生労働省、文部科学省、公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会の後援を得て、全国規模での募金活動を実施しました。募金総額は2億1,430万円、そのうち4分の1にあたる5,279万円は婦人会活動を通していただきました。婦人会の皆様には、募金の呼びかけ、キャンペーンでの街頭募金活動、知事表敬による

運動への協力依頼等、多大なご協力をいただき心より感謝申し上げます。

諸経費を除いた募金（益金）は図の通り、結核予防の広報や教育資料の作成、研修会や結核予防全国大会の開催等の「普及啓発」、開発途上国の結核対策支援「国際協力」、全国の結核予防団体の活動支援「事業助成」、結核の「調査研究」等に使用させていただきました。

募金の方法には、ダイレクトメールにて募金をお願いする方法や市町村等にお問い合わせする方法等があります。その方法別の募金額では、5割を超す自治体で婦人会を通じた活動による募金が一位を占めました。婦人会の皆様のご支援に重ねてお礼を申し上げますとともに、引き続き複十字シール運動へのご協力をよろしくお願いいたします。🐱



2018年世界禁煙デー記念イベント 「受動喫煙防止はどのように進展させるのか」

たばこと健康問題NGO協議会事務局

WHO(世界保健機関)は、毎年5月31日を世界禁煙デーと決めています。テーマは、「たばこは心臓に有害一選ぶのはたばこではなく健康を(Tobacco Breaks Hearts—Choose health, not tobacco)」でした。折しも、国会では健康増進法改正案や東京都議会で受動喫煙防止条例案の審議が開始されていました。

結核予防会が所属する「たばこと健康問題NGO協議会」は、5月31日(木)午後1時30分から日本医師会館(文京区駒込)にて記念シンポジウムを開催し、274名の参加を得て行われました。

今回は東京都の小池百合子知事に来賓挨拶をしていただきました。小池知事は、受動喫煙防止条例に先駆け、「東京都子どもを受動喫煙から守

る条例」を4月1日から施行していますが、「人に着目した都独自のルールを設け、働く人や子どもを受動喫煙から守りたい」と述べました。都は従業員を雇う飲食店では、店の規模にかかわらず原則屋内禁煙にするなど、国より厳しい条例案の骨子をまとめていたところでした。

都の受動喫煙防止条例は、6月27日(水)に可決、2020年4月に全面施行されます。受動喫煙防止の輪が今後全国的道府県・政令市・市区町村に広がっていくことを願っています。🐱



小池知事と禁煙啓発キャラクター「すわん君」

オランダ結核予防会の思い出

結核予防会総裁 秋篠宮紀子

今年の10月、国際結核肺疾患予防連合の総会が、オランダで開催されます。この機会に、10年ほど前のオランダ訪問をはじめとするオランダ結核予防会の思い出などについて、ふり返りたいと思います。

オランダ結核予防会を訪問

2009年は、日蘭通商400周年にあたる年でした。その記念行事の開催に際してお招きがあり、8月末にオランダを訪問しました。オランダでは、ベアトリクス女王陛下（当時）をはじめ、多くの方々にあたたかく迎えていただき、大変ありがたく思いました。この滞在中、ハーグ市にあるオランダ結核予防会を訪れ、関係者からお話を伺う機会がありました。

オランダでは、1903年に民間主導の結核対策が始まり、「オランダ中央結核対策委員会」と呼ばれる組織が作られました。この組織は、1953年に「王立」の称号を受け、現在に至っています。2010年からは、ウィレム=アレクサンダー国王陛下の叔母君でいらっしゃるマルフリート王女殿下が、総裁を務めていらっしゃいます。日本では、この組織を「オランダ結核予防会 (De Koninklijke Nederlandse Centrale Vereniging



オランダ結核予防会本部にて



募金に使われたエンマ・フラワー（訪問時に撮影）

tot bestrijding der Tuberculose)』と呼んでいますので、ここではその通称を使うことにします。

オランダ王室は、オランダの結核予防会の活動に深く関わっています。オランダ結核予防会が創立された当時のエンマ王太后は、お若いときにお姉さまを結核で亡くされ、結核対策に深い関心を持たれ、創立にも貢献されたそうです。

1910年には、結核対策の募金運動が始まりました。この募金は、エンマ王太后のお名前にちなんで「エンマ募金」と名付けられ、募金をした人の胸に付ける小さな造花は、「エンマ・フラワー」と呼ばれました。訪問時に見せていただきましたが、「個別訪問による募金」という説明がついています。このような造花を手渡す募金は、今はおこなわれていませんが、活動の歴史を残すために、大切に保管されていました。

オランダ結核予防会は、国内各地の診療所で結核患者の診断、治

療、管理をおこない、結核対策の中心的な役割を果たしてきました。以前、国民全体を検査した時代に使われた、X線写真を見る道具なども見せていただきました。左下が、そのときの写真です。

結核対策の考え方についてのお話も聞くことができました。それによると、オランダでは、結核患者が来るのを待つだけではなく、リスク集団を特定して検査し、患者を発見する方法をとっているそうです。リスク集団とは、10万人中50人以上の結核患者が毎年出る集団です。これらの集団に、X線機器を搭載したバスが出向くなどして、検査をおこなっているとのことでした。現在は、国内のキャンペーン、結核関係の調査、国際協力等を実施しています。

結核予防の歴史の展示についても説明していただきました。オランダ国内の結核患者は少なくなったものの、世界を見渡せば患者数は未だに多く、継続的な服薬で治

療する努力が続けられていることなどのお話がありました。

オランダと日本の結核予防会の交流と協力

オランダを含む西欧の国々の多くは、日本より100年ほど早く結核が蔓延した後、患者数が減少していき、現在は低蔓延の状態です。日本の結核予防会は、オランダ結核予防会から、さまざまな結核への取り組みについて学んできました。

オランダ結核予防会で活躍されたカレル・スティプロ博士は、1972年以降、日本の結核予防会の国際研修の講師をたびたび務めてくださいました。博士は、現在の結核の標準治療法であるDOTSを考案し、世界保健機構（WHO）でも活躍された方です。

また、日本の結核予防会の関係者がオランダ結核予防会の看護部門の専門家から、オランダの保健局の看護師による結核患者の支援について学ぶ機会もあるなど、オランダと日本の結核予防会の間で、交流がおこなわれてきました。

また、2008年から2011年まで、オランダ結核予防会がおこなったインドネシアの国家結核プログラムの強化の支援に対しては、日本の結核予防会が協力しました。

オランダ結核予防会職員の特別講演

昨年の3月、東京で開催された「第22回世界結核デー記念国際結核セミナー」では、オランダ結核予防会のメディカル・オフィサーであるヘーラルト・デ・フリース博士が、「結核低蔓延国オランダにおける対策の現状と課題」について特別講演をされました。2009年のオランダ訪問時に伺った、結核にかかりやすい集団を特定して検査などの対策をとることについて、さらに詳しく学ぶことができ

ました。

オランダでは、検査などの結核対策の対象を、結核感染のリスクが高い集団に絞り、効果的な結核対策をおこなっています。リスクの高い集団には、結核患者と接触した人、結核の高蔓延国で生まれた移民や難民、刑務所の受刑者、ホームレスの人などが含まれます。また、病気や薬の影響などによって免疫力が低下している人も、結核に感染しやすくなります。

接触者については、結核患者に接触した頻度や期間、接触していた部屋の広さなどが考慮されます。同じように接触した人でも、病気などで免疫が下がっている人が結核になりやすいので、そのような人を優先して検査することが大切だそうです。

刑務所では、受刑者に対する結核の検査がおこなわれています。この場合も、全員におこなうのではなく、生活環境などから結核のリスクが高いと判定された受刑者を対象として検査をしています。

移民や難民は、出身国が結核の高蔓延国かどうかを考慮し、リスクが高い集団に属する人に対しては、入国した後も定期的に検査します。出入国管理局から地方の公衆衛生組織に結核の検査を依頼したり、難民の手続きの一環として結核の検査をしたりします。逆に、結核患者が少ない国の出身であれば、検査対象から除くこともあります。BCG接種は、結核罹患率が高い国からの移民の子どもなど、対象を選んでおこなうそうです。そのため、オランダ結核予防会によるBCG接種のパンフレットは、オランダ国外出身の親が読んで理解できるように、オランダ語に加えて、英語、アラビア語、ソマリ語でも作られています。

この他に、結核菌のDNAの配列を分析することによって、どの

患者の細菌が感染して広がったかを特定することについてのお話もありました。DNAの配列は、薬剤耐性を見極めるためにも役立つとのことでした。

ご講演の後に、デ・フリース博士と、奥様のヴァインハーデン夫人に、お目にかかることができました。移民を対象にした結核に関する教育を効果的におこなうための調査のお話などを伺いました。

ヴァインハーデン夫人は保健師で、母子保健の分野で、育児に困難を感じる母親の支援などのお仕事をなさっています。

オランダでは、日本の母子手帳にあたるものが、妊娠前から子どもの思春期までをカバーする7冊の「ハンドブック」になっています。妊娠や育児について、幅広い情報を様々な家庭に届ける方法について、日本の母子手帳の説明をしながら、実り多いお話し合いをすることができました。

結核低蔓延国であるオランダの結核対策について、このようにいろいろなことを学ぶ機会を得てきたことを、ありがたく思っております。

結核予防会は、毎年3月に東京で世界結核デー記念国際結核セミナーを開催しています。毎年、さまざまな国から招かれる講演者から結核対策に関する貴重なお話を聴くことができます。今年は、ドイツの研究者ステファン・ニーマン博士が、ヨーロッパにおける多剤耐性結核の伝播について、分子疫学的手法を用いて明らかになったことを講演されました。出席者は結核対策の専門家を中心ですが、今後も機会があれば聴講し、結核に関して更に学びを深める時間になりたいと思っております。

※この原稿は今年の9月にご寄稿されました。

婦人会から結核予防会に寄附させていただきました

本協議会から公益財団法人結核予防会に対して、結核や胸の病気の予防に役に立てていただくために1,000,000円を寄附させていただきました。

9月10日（月）に結核予防会特別会議室において、公益財団法人結核予防会の工藤翔二理事長へ、本協議会の木下幸子会長から目録を贈呈し、日頃お世話になっている感謝の意を表しました。



新入会員ご挨拶

一般社団法人 日本女性薬局経営者の会
会長 堀 美智子



新しく仲間に入れていただきました、日本女性薬局経営者の会の堀でございます。よろしくお願ひします。本会は、地域の個店薬局を経営する女性薬剤師の立場から、セルフメディケーションを含む薬物

療法の在り方、健康に関する情報発信、地域密着の個店薬局の経営支援などに取り組むことを目的に2015年5月に発足したばかりのまだ若い会です。

少子・高齢社会を迎えて、地域の医療や介護を支える体制を造るために、国、地方を挙げて、いろいろな対策が進められています。しかし、医療費削減を見据えてでしょうか、薬局や医薬分業が期待にこたえていないなどと指摘され、

薬局批判が渦巻いています。経済優先、効率化が求められる世の中ですが、医療は人と寄り添うことが何より大切です。男性と女性はその視点が異なります。女性は、自分の周りの大切な人たちを守ることに一所懸命になります。薬剤師の6割越（約17万人）が女性薬剤師です。多くの健康についての知識と知恵を皆様と共有することができ、少子化対策にも貢献できたらと胸を膨らませています。

会長就任ご挨拶

大分県結核予防婦人会
会長 安部 志津子



この度、会長の重責を仰せつかりまして身の引き締まる思いでございます。早速、8月1日よりの複十字シール運動の開始に伴い知事表敬訪問を行い、協力依頼、趣旨等の説明をさせていただ

きましてまず初めての任務を終えました。

大分県の現状と致しましては年々患者数、罹患率ともに減少していますが、高齢者の方々の発病が8割以上も占めているのが実情です。私たちの力で少しでも改善ができればと強く感じております。

まず初年度は、地域に根差した私たちの組織力を活かしてきめ細かに高齢者の方々に、結核予防に対する正しい知識と健診の勧めに

皆様のご協力のもとに力を入れてまいりたいと思っております。

そして、家庭から地域へ、社会へと結核のない世界をめざして結核予防婦人会として知識の研鑽を重ねて、普及と啓発に努めて参りたいと気持ちを新たにしている所でございます。

どうぞご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

バヌアツ共和国訪問記

公益財団法人結核予防会
国際部業務課 紺 麻美

日本から飛行機を乗り継いで16時間。バヌアツ共和国は南太平洋に浮かぶ人口27万人の島国です。結核予防婦人会の国際協力活動の一環としてWHO西太平洋地域事務局の活動を支援するため、2018年8月28日から9月2日の6日間、バヌアツ共和国・ポートビラを結核予防婦人会の山下武子理事・事務局長と共に訪問しました。具体的には、次期WHO事務局長選挙に立候補した葛西^{かさい}健候補の活動に同行させていただきました。

1 歓迎式典（8月30日）

保健大臣の地元テオマ村にて、葛西候補の歓迎式典が行われました。村民による歓迎のダンスで盛大に迎えられ、葛西候補へは「マヌマル（road to blessings、幸福への道）」というカスタムネームが付与されました。村長からは、保健施設へのアクセス、安全な水、電気、道路が未整備であることが課題であり、支援が求められました。葛西候補は村民に対し、「健康はどこにあるのか」と問い、個々人が健康であることが健康な村、健康な国へつながっていくという趣旨のスピーチをされました。なお、この式典では、バヌアツの伝統的世界で貴重な財産とされる豚を殺す儀礼も行われ、保健大臣の葛西候補への信頼と期待を感じました。



村長と葛西候補



村民とのダンス



村民との集合写真

2 ビラ中央病院の視察（8月30日）

日本の無償資金協力により外来、救急、検査室、レントゲン室が入る病棟が建てられた病院で、病床数は150床、病床稼働率は約60%です。同行した野田医師（医療センター）によれば、帝王切開件数、率も少なく、患者のニーズが満たされていない可能性が指摘されました。低い病床稼働率について、サントス院長は患者の信頼が低いことが主な原因と考えており、オーストラリアによる指導が実施されなくなった現在、医師の研修に課題があるとされました。また、病院のレベルに応じて提供するサービスに関する規定は策定過程にあり、一次医療のサービスパッケージの内容のみ規定されている状況です。

3 JICAボランティア事業視察（8月31日）

JICAバヌアツ支所のご協力の元、3名の青年海外協力隊の活動を視察しました。シェファ州保健事務所では、新美隊員より学校保健の活動の報告を受けました。輸入食品の増加に伴う食生活の変化により、バヌアツでは生活習慣病が課題となっており、肥満対策が実施されています。学校内の駄菓子屋廃止や、駄菓子が見つかれば没収する規則の導入、BMI測定プログラムによる保健指導の介入が行われ、状況が改善しているとの報告がありました。公衆衛生局予防接種拡大計画課では、全国に配布するワクチン管理が松井隊員により支援されていました。松井隊員は学生時代に、スタディーツアーで2012年に予防会フィリピン事務所を訪問されており、現在バヌアツで活躍されている事に嬉しく感じました。最後に訪問したサウピアヘルスセンター（首都から車で1時間程）では、柿本隊員による活動説明を受けました。ここでは、5つの島を含む地域を管轄し、医療サービスが提供されています。ヘルスセンターでは、スタッフの給与以外の光熱費、燃料費等の活動費を診療費でまかっています。



シェファ州保健事務所



サウピアヘルスセンター



サウピアヘルスセンター敷地

4 葛西候補主催夕食会（8月31日）

保健大臣、大臣夫人、保健大臣政治顧問を招いた夕食会が開催されました。婦人活動の重要性について大臣夫人と山下事務局長は意気投合し、婦人の力で国を良くし、うまくいけばその経験を他の国の支援へつなげるアイデアを共有されました。



集合写真



左から：三好バヌアツ大使、山下事務局長、大臣夫人、保健大臣

最後になりましたが、在バヌアツ日本大使館の三好大使、高橋書記官にはバヌアツ訪問中大変お世話になり、この場をお借りしてお礼申し上げます。🍷

WHO西太平洋地域事務局の次期事務局長に葛西健先生内定！

10月9日に世界保健機関（WHO）西太平洋地域事務局の次期事務局長選挙がマニラで行われ、同事務局次長で医師・医学博士の葛西^{たけし}健先生が当選しました。おめでとうございます。写真は、マニラで喜びを分かち合う根本匠厚生労働大臣（左）と次期事務局長に内定した葛西健先生（右）です。🍷



カンボジアピアレン郡リファラル病院へX線装置バッテリーを寄贈しました

2017年12月に実施した「カンボジア結核対策スタディツアー」では、結核予防会が外務省の資金協力により支援したプレイベン州内のピアレン郡リファラル病院を視察しました。その際、X線装置用バッテリーの故障により稼働できていない事が分かりました。そこで、婦人会は病院の医療活動再開に協力するためにバッテリーの寄贈に至りました。

日本で購入したバッテリー2個は、結核予防会国際部の協力でカンボジアに運ばれ2018年6月に贈呈する運びとなりました。これにより、X線装置が稼働し、病気の診断や治療に役立てられることになります。



郡保健局長へバッテリー贈呈



現地の放射線技師（右側2名）

編集後記

「健康の輪」はこれまで表紙カラー・本文1色刷りで発行してきました。121号（2017年11月号）は創立40周年記念特集号としてオールカラー16ページ光沢紙印刷で発行し、前号123号（2018年7月号）からオールカラー光沢紙印刷でお届けしております。体裁新たに発行している本誌をご愛読いただきますよう、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。（三）🐱

TEIJIN
Human Chemistry, Human Solutions

患者さんの
Quality of Lifeの向上が
テイジンの理念です。



ちふれ化粧品は・・・

「誰もが手に入れやすく、安心してつかえる化粧品を。」という思いを込めて創り出した私たちの化粧品です。



ちふれが、約束すること。

- **高品質・適正価格であること。**
製造や販売にかかる余分なコストを削減して、高品質を適正な価格でお届けします。
- **無香料・無着色であること。**
肌によさしくありたい。だから、ちふれのスキンケアはすべて無香料・無着色です。
- **全成分・分量・配合目的を公開すること。**
品質の確かさや商品の安全性だけでなく、自分の肌に合った化粧品の内容を知っていただくためにも、すべての製品の全成分・分量とその配合目的を公開しています。
- **製造年月をすべての容器に表示すること。**
誰にもわかりやすく、安心して使えるように、製造記号を製造年月で表示しています。
- **環境問題に配慮すること。**
毎日使う化粧品だからこそ、環境を大切にしたい。ちふれは、詰替化粧品や植物由来容器の導入などで、環境問題に配慮しています。



ちふれ

あなたの、健康のそばに。



大正製薬



しあわせは、明日も健康であること。

人々の健康意識を高めること、日々の生活をOTC医薬品でサポートすること。
それが「セルフメディケーション」をスローガンに掲げる私たち大正製薬の使命。

OTC 医薬品のリーディングカンパニーとして、

より優れた医療用薬品の開発に力を入れるチャレンジャーとして、
常に「生活者の健康でより豊かな暮らし」の実現を目指しています。